



木村さんは1952年、高崎市に生まれた。高崎高在学中に井上ビルの中にあつたファンデーション・ギャラリーで目にした作品がきっかけで、ガラスの道へ。上越ケリスタルなどで経験を積むが、手仕事から離れて尾瀬の山小屋で歩荷ほっかをしていたこともある。



花瓶をつくり終えたばかりの木村さんの手のひら。ものをつくっている人の手はほんとうにきれい。自分とどこが違うかな、いつも見比べます



店舗なし
 ✉ info@senbataya.com
<http://www.senbataya.com/>



センバタヤ

畠山陽子さん

中嶋梨絵さん

テキスタイルデザイナーユニット。

織物をデザインする。生産は手織

りで手掛けることもあるし、両毛

地区の伝統を生かし、機屋さんと

のつながりを活用することも

2014年夏の時点で中嶋さんは再渡英中、畠山さんは桐生に暮らし、別れて活動を続けている。「私のほうが構造や計算、数字に強い。中嶋さんは現実離れたデザインをばーんと投げ掛けてきたりする。それを図案にするのは私で、難しいのなんの！でも得意なことが違うからいいのかも」

日本では珍しい、フリーのテキスタイルデザイナーという仕事。力むことなく「がっかりさせるようなもののはつくりたくない。いつでも心を込めて」と語る畠山さん。自分の言葉でクリアに思いを紡ぐ姿はまぶしく、布の不思議は広く深く、どちらにも魅了されてアトリエを後にした。





flowerman.

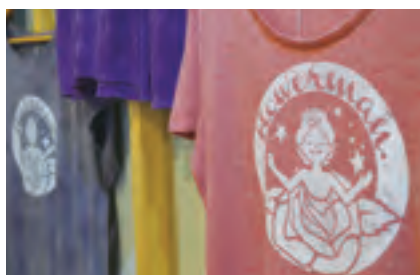


商店街の工房
「3! 4!! Studio」

前橋市の弁天通り。セキネ洋傘店(582)と大蓮寺に挟まれたブルーの扉の向こうに「3! 4!! Studio」はある。ここで制作するのはチームflowerman^{フラワーマン}。音楽やヒッピーカルチャーに影響を受けたカラフルな服やフアブリックパネルを、ろうけつ染めで制作する。

チームでやるから楽しい

ハンドメイドクリエイティブ集団 flowerman. は2000年、田中哲二さんを中心に活動を開始した。もともと音楽の趣味を同じくしてつながっていた仲間たち。アメリカから買い付けた好きなバンドのTシャツがろうけつ染めだったため「このかっこいいやつ、自分たちでつくれないかな」と染めの世界に目を向けた。





AKA+H
×
セキネ洋傘店
の日傘です

オリジナル版『ぐんまの手仕事』でご紹介したAKA+Hとセキネ洋傘店。関根さんが「AKA+Hさんの布、傘にしてみたいな」とつぶやいたことから2組のコラボ企画がスタートしました。

AKA+Hは飯島浩さん、美弥さんご夫妻のユニットです。浩さんが図案を描き、ハンドプリントで仕上げた布を美弥さんがバッグや小物に仕立てます。絵をまとう感覚で身につけられる作品が魅力です。

セキネ洋傘店は明治37年創業、前橋市の弁天通りアーケードにあり、関根健一さんは4代目。お客さまが持ち込んだ布を、すべて手作業で傘に仕立てる仕事や修理を請け負います。